

# 「科学技術外交とODA」提言のポイント

## 1 ODAを活用した我が国の科学技術の社会実装支援

- 地球規模課題について開発途上国と国際共同研究を行う「地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)」につき、事業実施後も技術協力や無償資金協力を活用し、更なる社会実装を推進すべき。
- 日本の技術や製品の普及・標準化も重要。
- 開発途上国での社会実装を通じて得られたノウハウを我が国に還流し、国内における更なるイノベーションにもつなげる仕組みを構築することが望ましい。

## 2 ODA事業への科学者、技術者の参画の推進

- 科学者、技術者等にODAについて積極的に情報発信し、周知していくことが重要。
- 科学技術を扱う個人・団体がODAに参画しやすい環境整備・体制強化を推進すべき。

## 3 国際頭脳循環による共創の促進

- 若手研究者の招聘や派遣を強化すべく、若年層の招聘や研修の戦略的・継続的な活用や、JICA海外協力隊(連携派遣)の制度のより積極的な活用をすべき。
- 途上国と我が国の大学間ネットワークの支援アセットを活用し、研究資金支援終了後も、共同研究・共同教育等の活動を可能とする仕組みが求められる。
- 企業に所属している研究職とも連携したODA事業を検討すべき。科学者、技術者等による開発協力への参画に対するインセンティブとなる仕組みを検討すべき。

## 4 多様なパートナーとの連携強化

- 多様な主体を巻き込み、**オファー型協力**を行ったり、地球規模課題の解決に、**他ドナーや国際機関との連携を強化**したりすることが重要。
- **SATREPS等の成果を、民間や国際機関へ橋渡し**する仕組みを確立すべき。
- **民間セクターに蓄積されている応用研究の活用**に向けて、平和構築支援を含む幅広い分野で、**民間企業や経済団体との連携**が求められる。
- **民間資金の更なる動員**に向けて、ESG投資等の民間セクターの新たな動きに対応した**ファイナンス・スキーム**を検討すべき。

## 5 成果の評価と発信・広報の強化

- 科学技術を活用したODAの**取組や成果を国内外で更に周知**し、広い理解を得ていくことが極めて重要。
- 科学技術を活用したODA事業の成果が**社会実装や政策展開に結び付くことをエビデンスベースで評価**することで、事業の有益性の理解が深まる。**こうした考え方に基づく評価、情報発信、広報**の方法を確立すべき。

## 結び

- 本提言の各項目を着実に進めていくには、国力の維持・増進という観点から科学技術外交が極めて重要という共通認識の下、**関係府省庁と連携して取り組むとともに、十分なODA予算の確保、必要な体制の整備が不可欠**である。